

株式会社トクヤマ

2027年3月期 第1四半期決算

決算説明会

2026年7月29日



2027年3月期 第1四半期決算のポイント

- 売上高は原料の一時的な逼迫による化学品の販売減少が減収要因となったものの、トクヤマライフサイエンス（TLS）グループの連結や半導体関連製品の販売増加等により対前年同期比で増収
- 営業利益は化学品の販売減少や原燃料コストが増加したこと等により、対前年同期比で減益
- 2027年3月期の業績予想・配当予想を公表。
通期業績は増収ながら、原燃料コストの上昇等により減益の見込み。
配当は中間60円、期末72円とし、年間では4期連続の増配を予定

※TLSグループののれん金額確定に伴い、2026年3月期の数値を遡及修正。
当資料における2026年3月期の数値は修正後の数値を記載

CONTENTS

1. 2027年3月期 第1四半期決算

2. 2027年3月期 予想

補足資料 (Appendix)

決算概要 損益計算書

(億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	818	856	+38	+5	・TLSグループ連結 (+) ・半導体関連製品の販売増 (+) ・原料の一時的な逼迫による化学品販売減 (△)
売上原価	538	556	△18	△3	・化学品販売減 (△) ・原燃料コスト増加 (△)
販管費	200	238	△37	△19	
営業利益	78	60	△18	△23	
営業外損益	△2	6	+9	-	・営業利益の減少 (△)
経常利益	76	67	△8	△12	・為替差損益の改善 (+)
特別損益	0	6	+5	+748	・経常利益の減少 (△) ・投資有価証券売却益の増加 (+)
税前四半期純利益	76	73	△3	△5	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	49	52	+2	+6	
1株当たり四半期純利益 (円)	68.27	72.34	-	-	
為替 (円/\$)	145	159	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kl)	66,000	116,500	-	-	

(注) 増減の表示は、利益を+、損失を△としている

決算概要

貸借対照表

(億円)

	2026年3月末	2026年6月末	増 減	主要な変動要因
総資産	5,696	5,779	+82	棚卸資産の増加
自己資本	2,830	2,870	+39	親会社株主に帰属する 四半期純利益の積み上げ
自己資本比率	49.7%	49.7%	△0.0pt	-
有利子負債	1,620	1,647	+26	コマーシャル・ペーパー および長期借入金の増加
D/Eレシオ	0.57	0.57	+0.00	-
ネットD/Eレシオ*	0.41	0.40	△0.01	-
1株当たり純資産（円）	3,934.76	3,988.96	-	-

*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

セグメント別売上高／営業利益（対前年同期比）

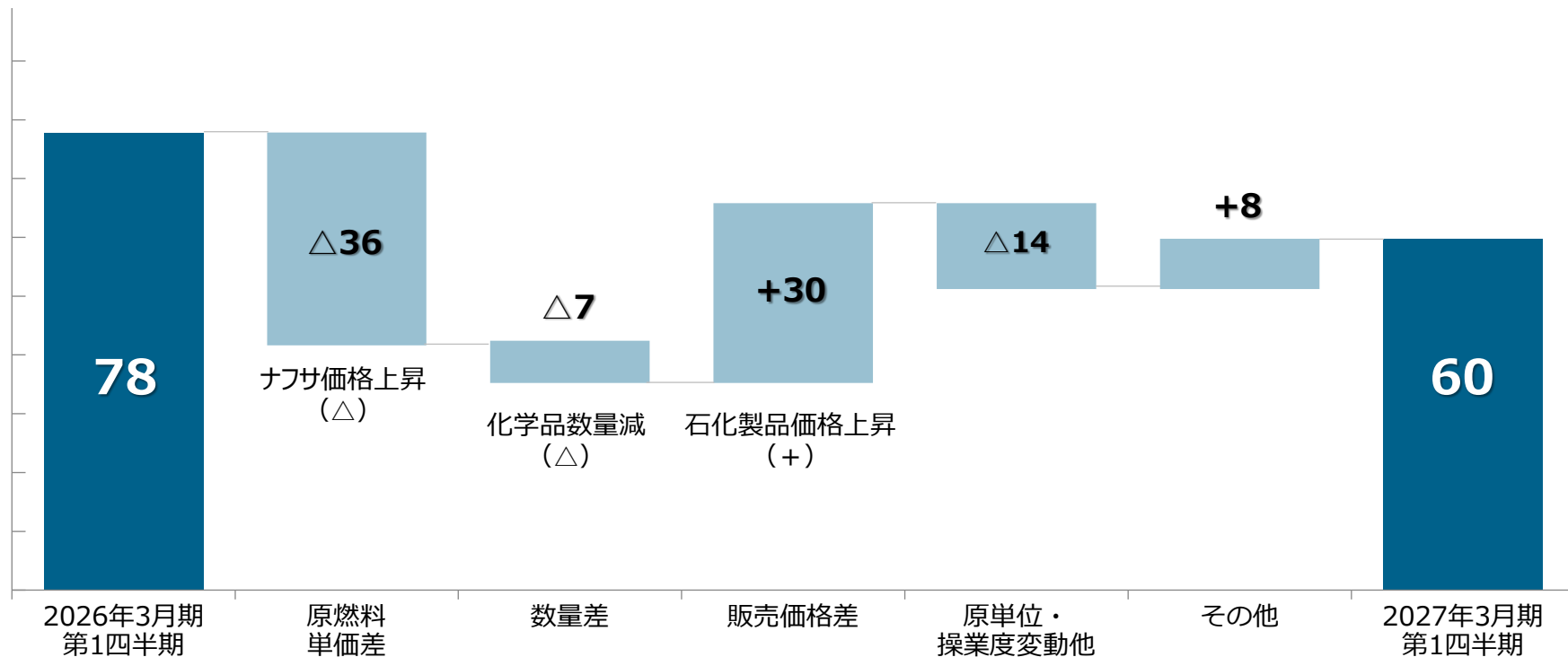
（億円）

	2026年3月期 第1四半期		2027年3月期 第1四半期		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	274	28	246	5	△27	△10	△22	△81
セメント	160	25	160	25	△0	△0	+0	+1
電子先端材料	212	28	223	31	+10	+5	+3	+11
ライフサイエンス	90	17	146	26	+55	+61	+9	+55
環境事業	14	1	10	△0	△3	△26	△1	-
その他	93	△0	97	2	+3	+4	+3	-
計	847	99	885	90	+38	+5	△8	△9
セグメント間消去・全社費用	△28	△20	△29	△30	△0	-	△9	-
連結決算	818	78	856	60	+38	+5	△18	△23

（注）各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

営業利益増減分析 (対前年同期比／要因別)

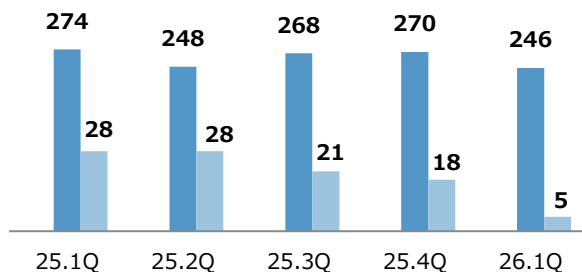
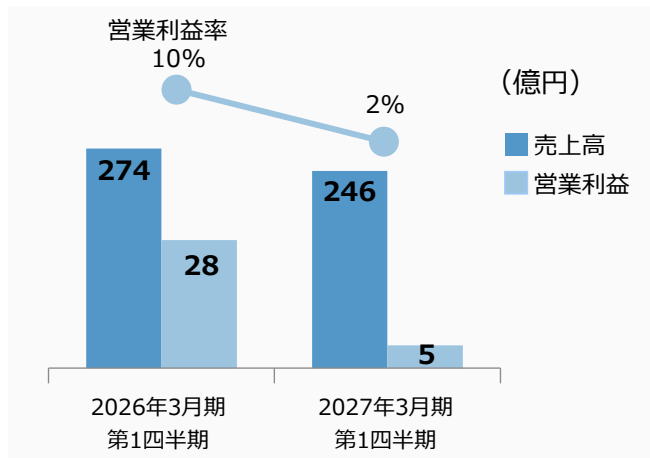
(億円)



セグメント別売上高／営業利益増減

化成品

減収減益



定性情報

(苛性ソーダ)

- ・販売数量が減少したこと、および製造コストが増加したこと等により減益

(塩ビモノマー)

- ・製造コストが増加したこと等により減益

(塩ビ樹脂)

- ・製造コストが増加した一方、国内の販売価格改定を進めたこと等により、前年同期並みの業績

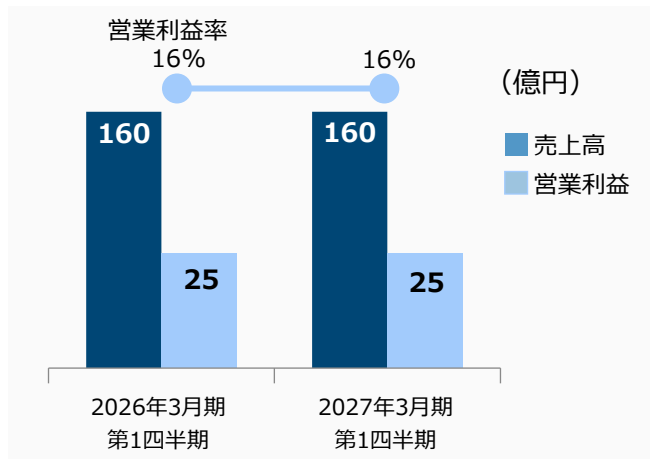
(ソーダ灰・塩化カルシウム)

- ・製造コストや物流費の増加等により減益

セグメント別売上高／営業利益増減

セメント

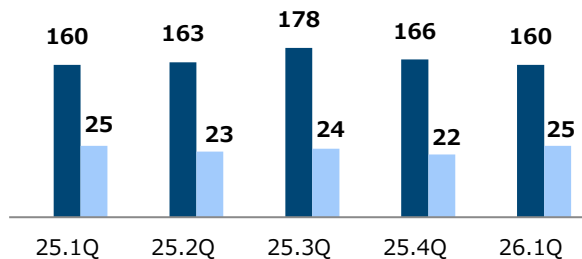
前年同期並み



定性情報

(セメント)

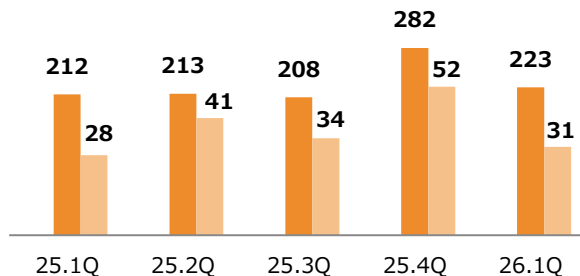
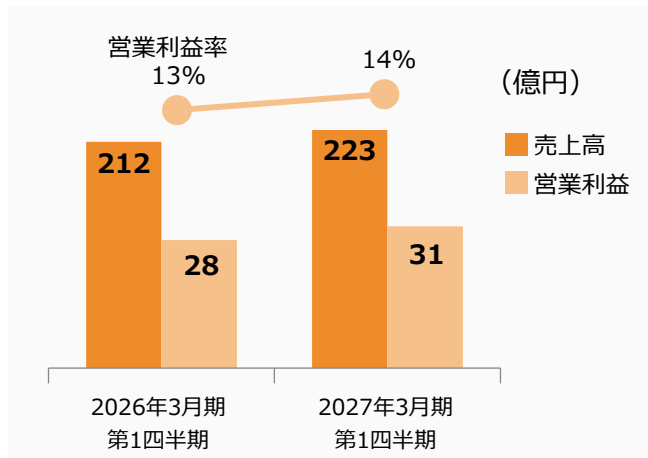
- ・国内出荷が前年同期比で減少したものの、連結子会社の収益改善等により前年同期並みの業績



セグメント別売上高／営業利益増減

電子先端材料

増収増益



定性情報

(半導体向け多結晶シリコン)

- ・販売数量が前年同期比で減少したものの、棚卸資産評価損が縮小したこと等により増益

(ICケミカル)

- ・電子工業用高純度イソプロピルアルコールの販売数量が増加したものの、原料価格の上昇等により減益

(乾式シリカ)

- ・販売数量が堅調に推移したことや、徳山化工（浙江）有限公司における製造コストの低減等により増益

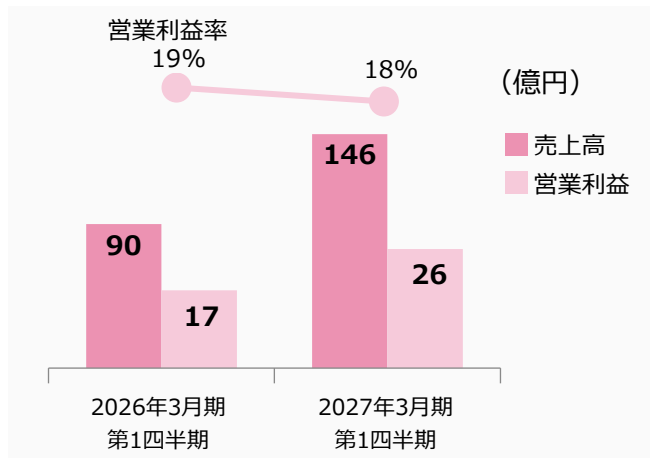
(放熱材)

- ・半導体製造装置向けを中心に販売数量が堅調に推移したこと等により増益

セグメント別売上高／営業利益増減

ライフサイエンス

増収増益



定性情報

(歯科器材)

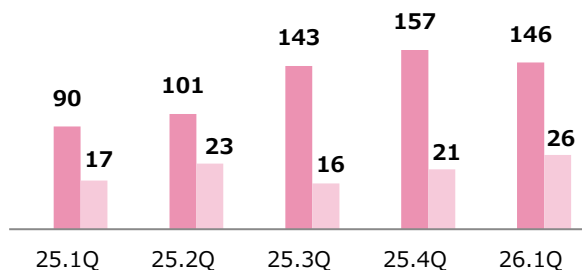
- ・販売が堅調に推移したことや円安による為替の影響等により増益

(診断)

- ・トクヤマライフサイエンスグループの連結等に伴い増益

(医薬品原薬・中間体)

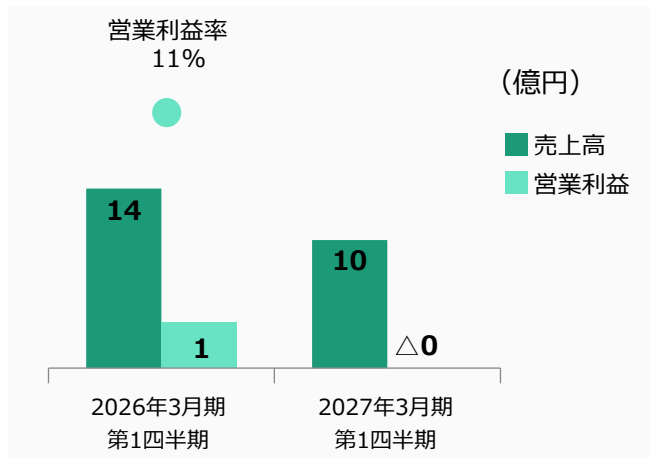
- ・ジェネリック医薬品向けの販売数量が堅調に推移したこと等により増益



セグメント別売上高／営業利益増減

環境事業

減収赤字転落



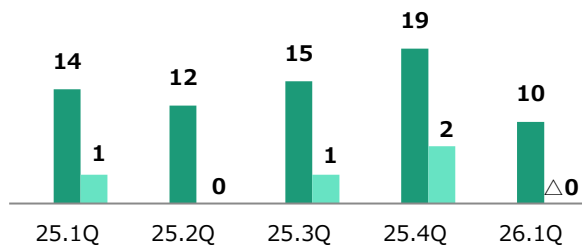
定性情報

(イオン交換膜)

・膜および装置の出荷が減少したこと等により減益

(廃石膏ボードリサイクル)

・廃石膏ボード収集が堅調に推移し収益改善



CONTENTS

1. 2027年3月期 第1四半期決算
2. 2027年3月期 予想

参考資料 (Appendix)

業績予想のポイント

業績予想開示に至った理由

2026年3月期末時点ではオレフィン調達（数量・価格）の見通しが極めて不透明であったが、調達環境の不確実性が一定程度解消し、業績予想の前提条件の合理的な見積もりが可能と判断したため

- 2027年3月期業績予想の前提条件は下記のとおり

為替	160円／\$
国産ナフサ価格	1Q実績 : 116,500円／kℓ 2-4Q予想 : 86,000円／kℓ

- セメント・固化材の国内販売事業の譲渡による影響はクロージング前であることから本業績予想に織り込んでいない

事業環境について

中東情勢の影響は受けるものの、ライフサイエンス・電子先端材料を中心に収益確保

セグメント	事業環境（2026年3月期 公表分からのアップデートは青字）
化成品	・内需は低調 ・塩ビについては、安価な海外品の流通により、コスト上昇に反して市況は低調 ・エチレン等の原料調達は2026.2Q以降平常化も、2026年度中は国産ナフサ価格が高水準で推移の見込み ・ソーダ灰、苛性ソーダなど多品目で製造コスト、物流費等が恒常的に上昇
セメント	・内需は縮小（3,000万トン／年*） ・石炭価格の上昇 ・セメント・固化材の国内販売事業の譲渡については、結合審査を通過し、7/1吸収分割先となる新会社設立、7/24当社と新会社間で吸収分割契約締結
電子先端材料	・半導体ウエハー市場は踊り場も、先端分野は堅調維持。また、先端化に伴い製造処理プロセスが増加 ・汎用、レガシー分野は回復に力強さを欠くとともに、中国メーカーが台頭 ・プロピレン等の原料調達は調達の不透明感は解消も、価格上昇（IPA）
ライフサイエンス	・歯科器材：欧米を中心に好調継続 ・診断：高齢化、慢性疾患増加で成長は底堅い。中国のIVDM市場は、回復基調 ・プラスチックレンズ関連材料：新製品上市、下期より収益貢献見込み

* セメント協会発表値

業績予想 (対前期比)

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,494	3,920	+425	+12	・TLSグループ連結 (+) ・半導体関連製品の販売増 (+)
営業利益	370	340	△30	△8	・原燃料コスト増加
経常利益	382	340	△42	△11	・営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	222	260	+37	+17	・特別損益の改善
1株当たり当期純利益 (円)	308.66	361.38	-	-	-
為替 (円/\$)	151	160	-	-	
国産ナフサ価格 (円/kl)	65,300	1Q実績 : 116,500 2-4Q前提 : 86,000	-	-	

セグメント別業績予想 (対前期比)

(億円)

	2026年3月期 実績		2027年3月期 予想		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	1,062	97	1,200	100	+137	+13	+2	+3
セメント	668	95	670	70	+1	+0	△25	△27
電子先端材料	916	156	1,065	160	+148	+16	+3	+2
ライフサイエンス	493	78	630	115	+136	+28	+36	+46
環境事業	61	6	65	5	+3	+6	△1	△24
その他	417	20	420	15	+2	+1	△5	△26
計	3,620	454	4,050	465	+429	+12	+10	+2
セグメント間消去・全社費用	△125	△84	△130	△125	△4	-	△40	-
連結決算	3,494	370	3,920	340	+425	+12	△30	△8

(注) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

配当予想

方針：「DOE4%（2030年度）」を目標に安定かつ継続的な配当を実施

2027年3月期は中間60円、期末72円を実施予定

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026 予想
中間配当金（円）	35.0	35.0	35.0	50.0	60.0	(60.0)
期末配当金（円）	35.0	35.0	45.0	50.0	60.0	(72.0)
配当性向（%）	18.0	53.8	32.4	30.8	38.9	(36.5)
DOE（%）	2.4	2.3	2.5	2.9	3.3	(3.4)

DOE:期末時点の連結株主資本配当率

投資計画

(億円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増 減
設備投資額	327	461	+133
減価償却費	209	238	+29
研究開発費	177	213	+36

投資計画

■ 電子先端材料
 ■ ライフサイエンス
 ■ 化成品
 ■ セメント
 ■ 環境事業
 ■ その他／全社

2026年3月期（実績）



投資金額

327億円

設備投資 主な案件

- 多結晶シリコン ベトナム工場建設
- 高純度IPA FTACリサイクル設備新設
- 窒化アルミニウムフィルター生産設備

2027年3月期（計画）



投資金額

461億円

<継続>

- 多結晶シリコン ベトナム工場建設
- 高純度IPA FTACリサイクル設備新設

<新規>

- 高純度IPA FTAC2期建設
- カレット燃料転換

0 50 100 150 200 250 300 350 400 450 500 (億円)

事業説明会開催について

事業説明会の開催

内容：トクヤマライフサイエンスグループの
ビジネス紹介、事業環境や市場、強みや将来性について

日時：2026年9月30日(水) 14:30開始予定

登壇：専務執行役員 ライフサイエンス部門長
岩崎 史哲 他

※詳細は別途ご案内

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 

補足資料 (Appendix)

連結財務諸表（要約） 損益計算書

(億円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	増 減	
			金額	%
売上高	818	856	+38	+5
売上原価	538	556	△18	△3
販管費	200	238	△37	△19
営業利益	78	60	△18	△23
営業外損益	△2	6	+9	-
経常利益	76	67	△8	△12
特別損益	0	6	+5	+748
税前四半期純利益	76	73	△3	△5
法人税等	26	20	+5	+21
非支配株主損益	1	0	+1	+74
親会社株主に帰属する 四半期純利益	49	52	+2	+6

(注) 増減の表示は、利益を+、損失を△としている

連結財務諸表（要約） 貸借対照表

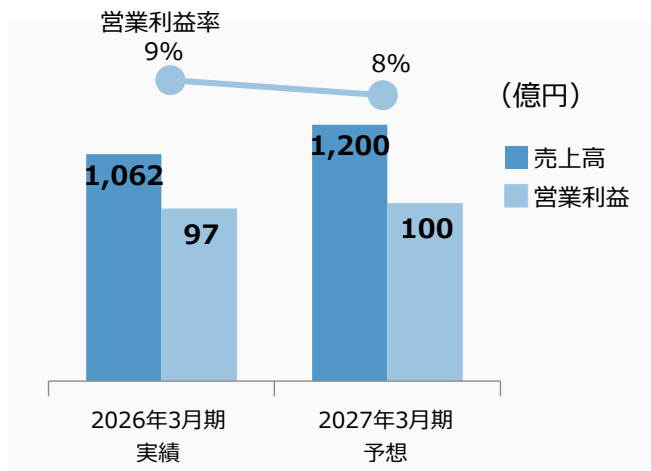
(億円)

	2026年3月末	2026年6月末	増 減	
			金額	%
資産合計	5,696	5,779	+82	+1
流動資産	2,120	2,158	+37	+2
有形固定資産	1,902	1,928	+25	+1
無形固定資産	755	750	△5	△0
投資その他の資産	917	942	+25	+3
	2026年3月末	2026年6月末	増 減	
			金額	%
負債合計	2,718	2,759	+41	+2
流動負債	1,214	1,241	+26	+2
固定負債	1,503	1,518	+14	+1
純資産合計	2,978	3,019	+41	+1

セグメント別業績予想

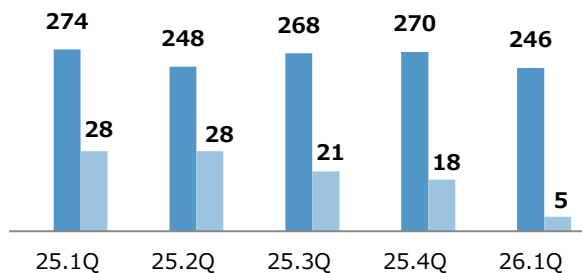
化成品

増収増益

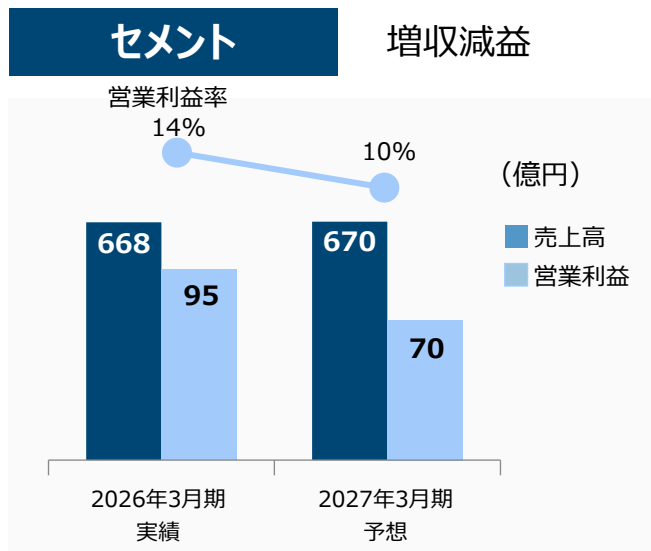


定性情報

- ・原燃料価格の動向や、主要製品の海外市況など、収益面で厳しい事業環境が続くと予想
- ・製造コストの削減による競争力強化、事業環境の変動に対応した施策の実施により収益確保に努める



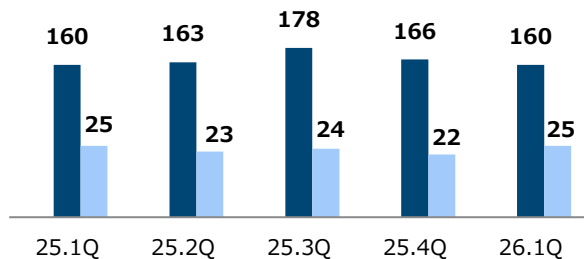
セグメント別業績予想



定性情報

- ・事業環境の変化を踏まえ、セメント・固化材の国内販売事業譲渡を決定。
サプライチェーンへの影響を最小限に抑えることを優先事項とし、2026年10月1日のクロージングへ向け対応を進める

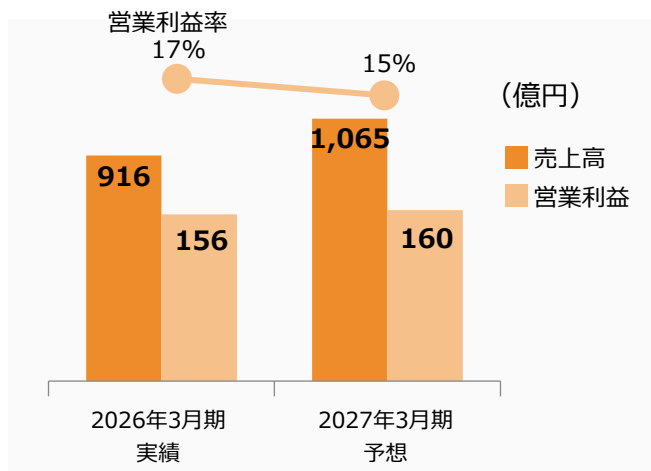
(注) 2026年度予想はセメント・固化材の国内販売事業の譲渡影響を除いた数値



セグメント別業績予想

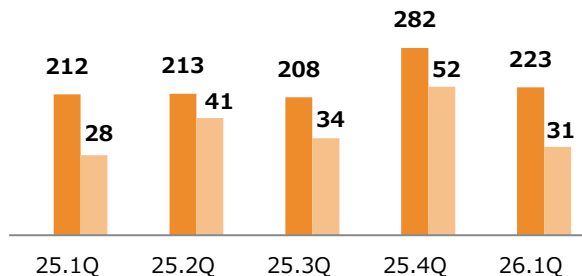
電子先端材料

増収増益



定性情報

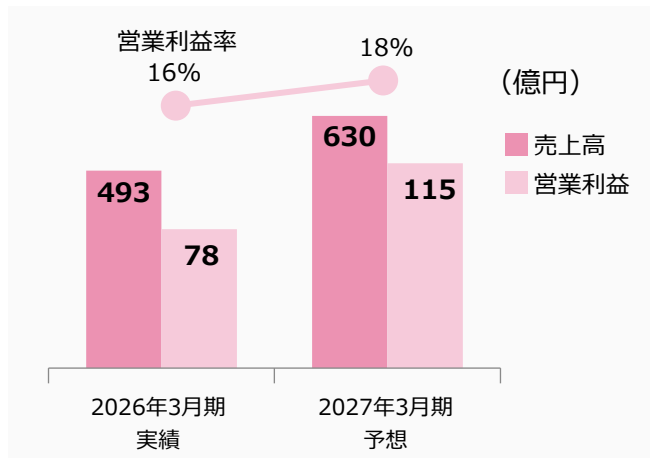
- ・汎用分野での本格回復には時間を要しているものの、AIデータセンターの活況等を背景に半導体市場は中長期的に需要拡大の見込み
- ・グローバル拠点の強化や品質面での差別化により、先端分野での存在価値をさらに高める



セグメント別業績予想

ライフサイエンス

増収増益



定性情報

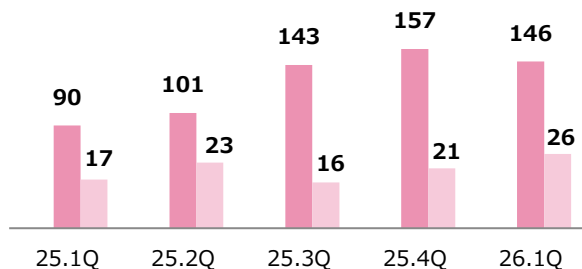
(歯科器材・プラスチックレンズ関連材料)

・海外向けを中心に堅調な推移を見込む。

引き続き顧客ニーズや市場の変化に対応した新製品開発と販売活動に注力し、収益の拡大を目指す

(診断)

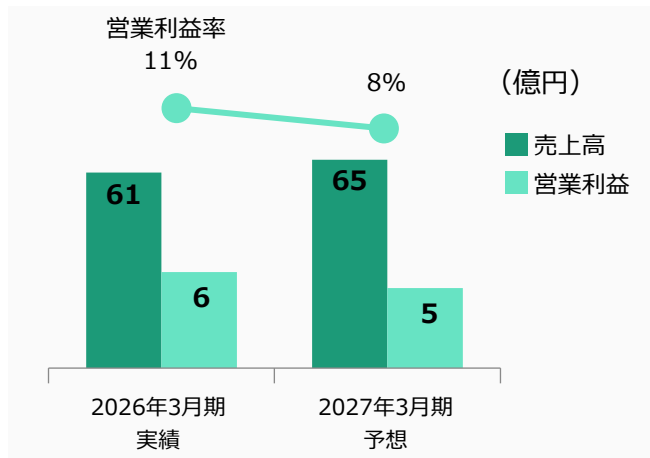
・2025年度下期より連結したTLSグループにおいて収益の拡大を目指すとともに、体外診断試薬開発を推進



セグメント別業績予想

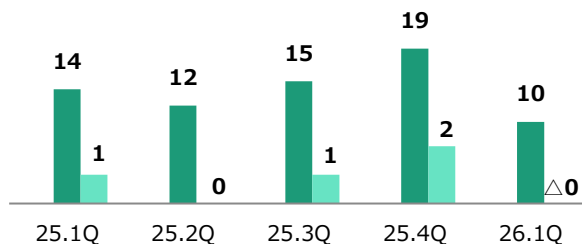
環境事業

増収減益



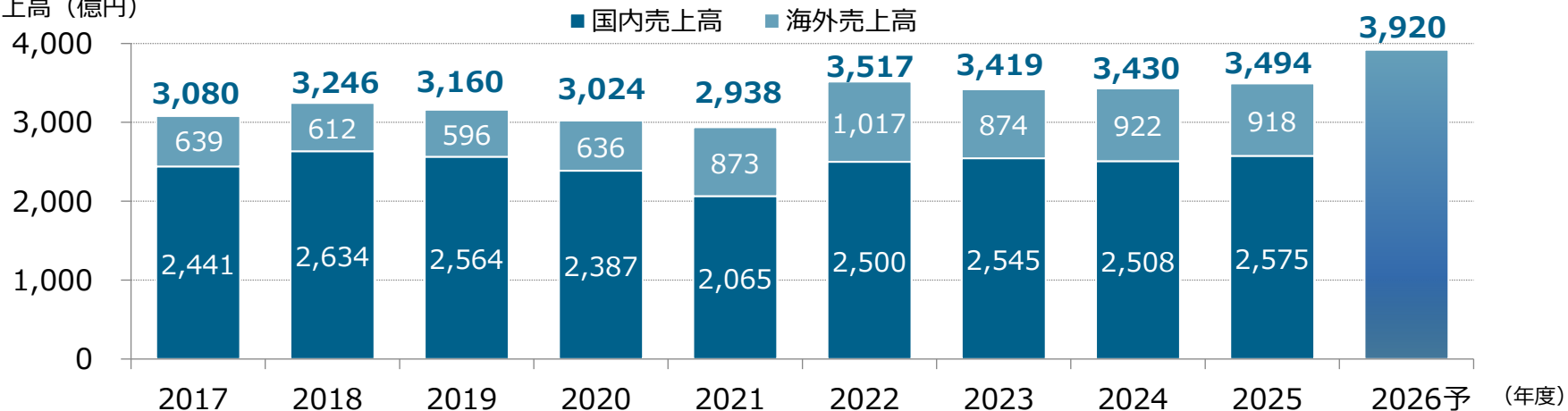
定性情報

- ・持続可能な社会の実現を目指し、イオン交換膜・廃石膏ボードリサイクル等の既存事業の拡大を推進
- ・特徴ある技術を基盤に、トクヤマグループの次なる成長の柱を目指す

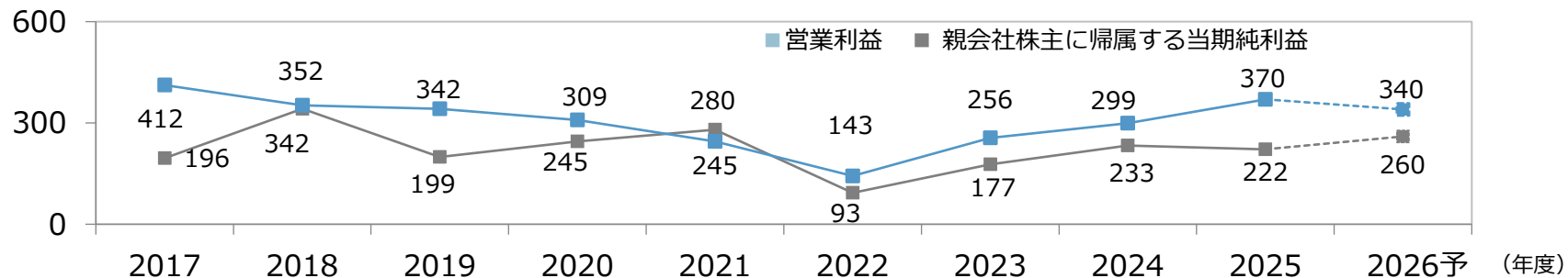


業績推移

売上高 (億円)



(億円)



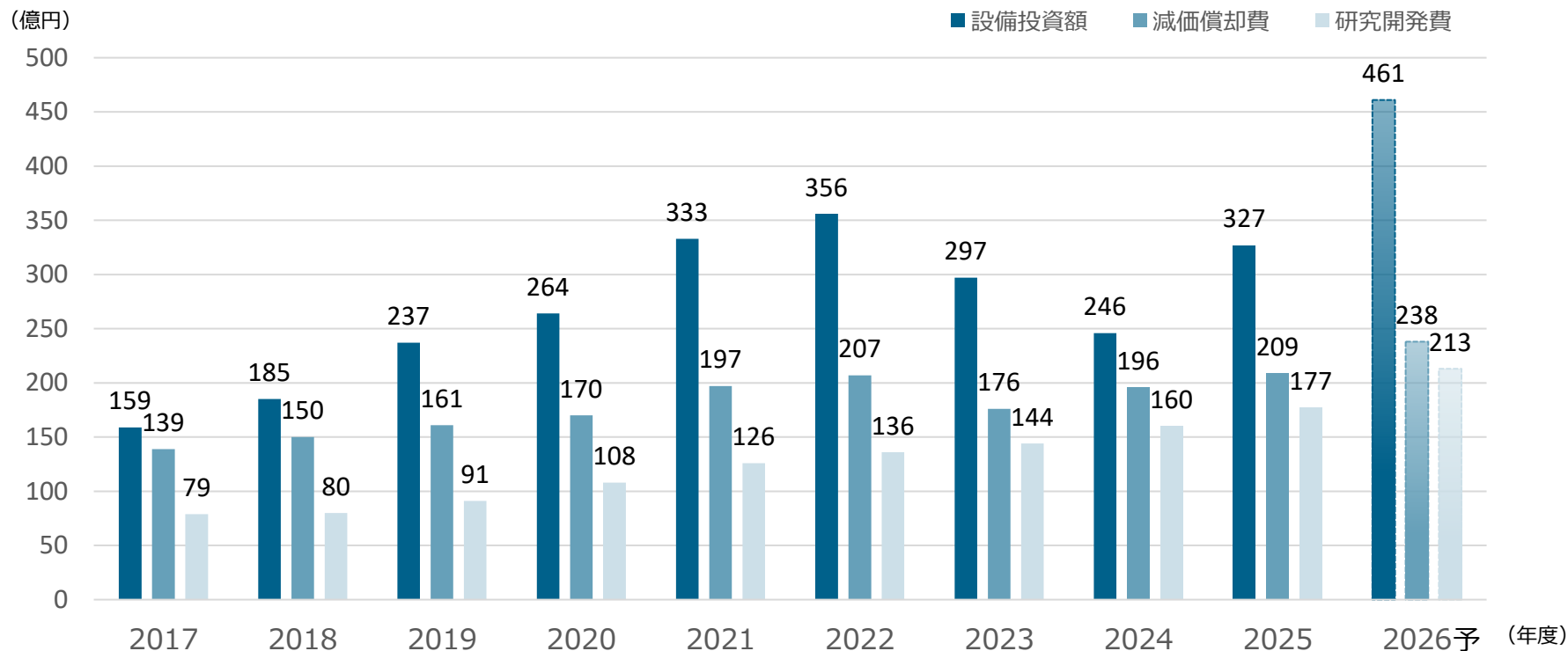
セグメント別業績推移

(億円)

売上高	2025年度				2026年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
連結決算	818	819	877	979	856
■ 化成品	274	248	268	270	246
■ セメント	160	163	178	166	160
■ 電子先端材料	212	213	208	282	223
■ ライフサイエンス	90	101	143	157	146
■ 環境事業	14	12	15	19	10

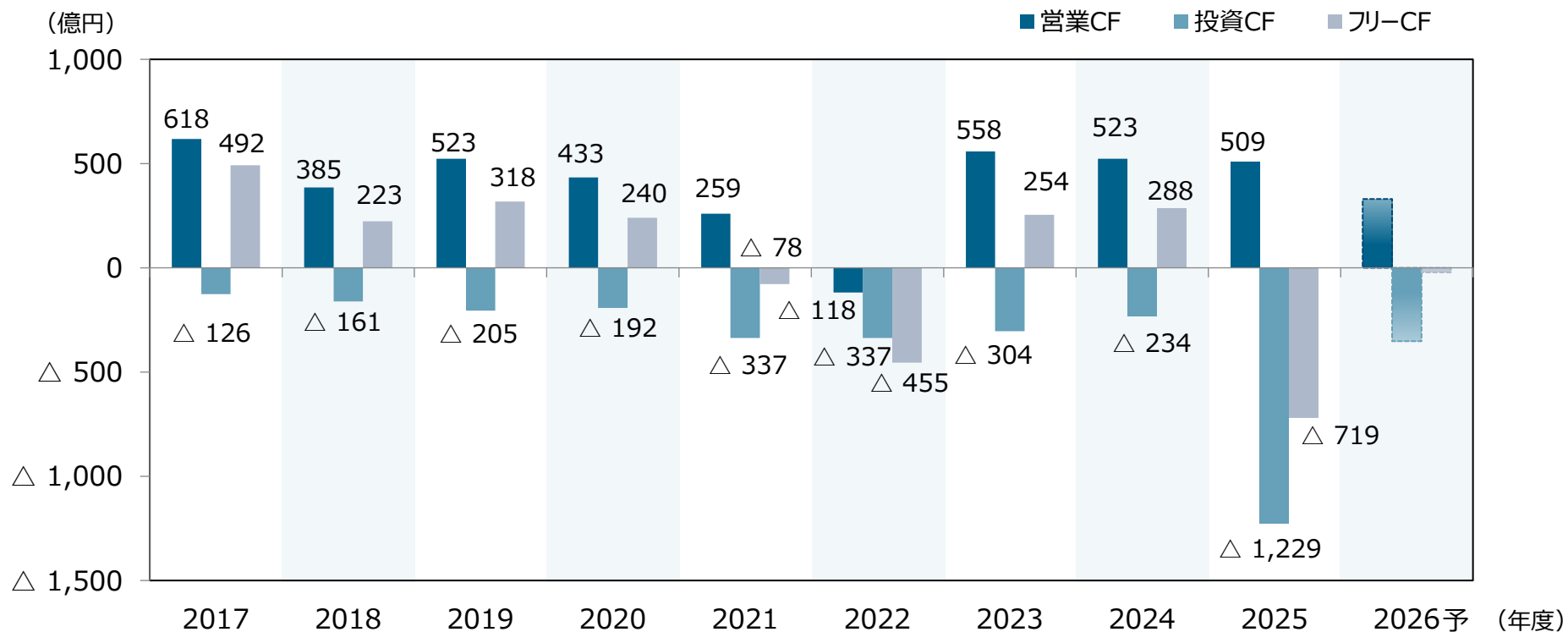
営業利益	2025年度				2026年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
連結決算	78	112	55	123	60
■ 化成品	28	28	21	18	5
■ セメント	25	23	24	22	25
■ 電子先端材料	28	41	34	52	31
■ ライフサイエンス	17	23	16	21	26
■ 環境事業	1	0	1	2	△0

設備投資額・減価償却費・研究開発費推移



(注) 2023年度より、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更しております

キャッシュフロー推移



(注) 2026年度予想はセメント・固化材の国内販売事業の譲渡影響を除いた数値

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 

本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、
不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じる
いかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。